音訳用漢字説明表　墨田区版の説明と使用上の留意点

音訳版『常用字解』と漢字の説明

『常用字解』（白川静著、平凡社、２００３年、第一版）の漢点字版の完成（２０１１年、横浜中央図書館所蔵）を受けて、その音訳版の要望があったことを機に、墨田区内、並びに都内の音訳者の方々に呼びかけて、「字解音訳プロジェクト」を立ち上げました。

『常用字解』は、白川氏の三部作（『字統』『字訓』『字通』）を、より一般向けに、見出し字を常用漢字に絞って、簡潔で分かりやすい漢字の解説書として出版されました。この書の漢点字版並びに音訳版が揃えば、これまで漢字に触れることのできなかった視覚障害者にとって、漢字理解への入口となる貴重な資料になるものと考え、『常用字解』の音訳を開始しました。

作業を開始した当初は読み下すだけの音訳でしたが、それでは聴読によっての内容の理解に至らないことが分かってきました。そこで、要所要所に漢字の説明を入れて、聴読の便宜を図ることにしました。

統一された漢字の説明

音訳マニュアルでは、漢字の説明について「必要に応じて簡潔な説明を施す」とされています。しかし、どのような場合に説明が必要で、どのように説明すればよいのかという具体的な指示はありません。その基準は、音訳者個々の判断に委ねられていたため、「簡潔」な説明は、個々ばらばらで、単に短いというものとなっていました。そのため、漢字を正しく分け、その意味を分かりやすく伝えるためには、統一された説明方法が必要であるという考えに至りました。

そこで、音訳版『常用字解』製作に当たって、漢字の説明の部分を、その漢点字版製作の経験から、横浜漢点字羽化の会の岡田健嗣氏がその製作を担い、「岡田メモ」としてご提供いただくことになりました。それがこの「音訳用　漢字説明表」の前身です。

なお、『常用字解』の音訳版は完成し、サピエ図書館に所蔵されています。

本漢字説明表使用に当たっての留意点

「所」と「処」や「切」と「截（せつ）」のように字音や字義が同じであっても別字であったり、「聯（れん）」を使用すべきところを「連」が代用されて、いつしかこれが常用されるような文字があります。そのような漢字を分けて理解できるようにするためには、従来の「できるだけ短い説明」では十分ではありません。そこで、本表では多少長くなっても、聴いたときに漢字の意味や違いが理解しやすい説明を目指しました。

この一覧をご利用いただくに当っては、以下の点にご留意ください。

① この一覧は、ＪＩＳコード第一水準・第二水準の漢字で構成されています。字数は六千字を超えるため、すべての文字を一様に説明することはできませんでした。いくつかの工夫を施しています。

② この漢字の説明の構成は、原則として三つの部分からなっています。多くの場合、漢字の訓読・意味・音読の熟語からできています。その他、重要な呉音の熟語や字形を取り入れているものもあります。

③ 音訳に当たって、地の文との区別には十分ご注意ください。区別ははっきりと、また滑らかさを欠くことなく、説明は一息でお読みください。

④ この説明は、音声化を前提に検討したものです。日本語のリズムに配慮しています。そのリズムを汲み取って、お読みください。

音訳用漢字説明表　墨田区版へ